

ADULT ONLY R18

CONTENTS INCLUDE

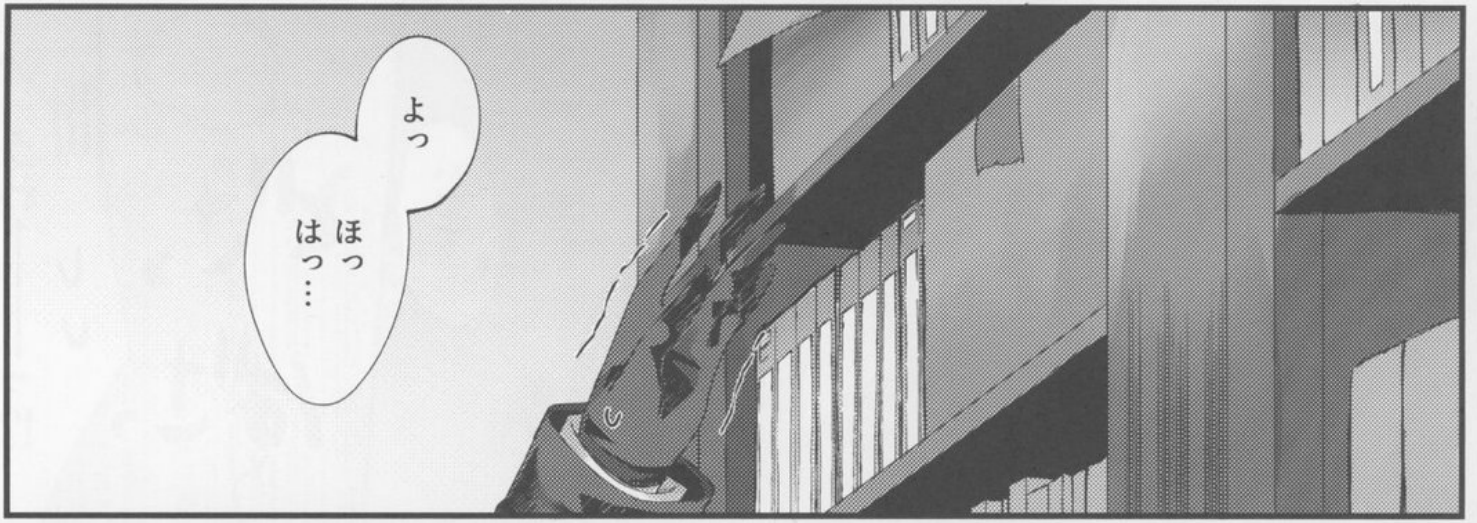
Arknights Unofficial fanbook  
Presents by Hibiscus

Angel

エンジェルテンプレション

Temptation









ドクター

け、ケルシーだったら  
どうしようと思って…

あー確かに派手に  
散らかしてるしね

おわびに片付け  
手伝うよ

あーがきつ…

はく…



おや…

そんなに驚かれるとは

モ、モステイマ…

…ん



…ドクター

その手に持ってるの…

あ、ああ…

今落とした時に  
見つけたんだ

赤いアーツ学なんて  
見たことないし…

ふーん…

ちょっと見せて

え…うん



ふーん…  
ほうほう  
なるほどねー…  
何かわかったか？



確かにこれはアーツ学だね  
でもこのアーツを  
発現するには環境を整える必要が  
あるみたいだ

…環境…？



ね、ドクター  
これ私が預かっていてもいいかい？

今夜君の部屋に行くから、  
そこでこれが何か教えよう

お、おおう…？

???





待たせたね、  
ドクター

！  
モステイマ

ウイ  
入るよ、ドクター



ああ、  
これね

それで、  
アーツ学のことば…

とっ  
とっ



時にドクター

アーツがどういうものかは  
知っているね？

戦闘中は  
いろんなオペレーターたちが  
アーツの力を借りて  
攻撃や回復をしているけど

レニオニオは  
肉体化と  
不変化と

Practical Arts

それら以外に  
精神面に作用するアーツも  
あるってことさ

…精神…

…洗脳や  
催眠の類か？

おっ  
さすが鋭いね  
ドクター

そういう感じ…  
というかほぼ正解だよ



ほぼ正解…  
何だ…?  
…?  
…?

いわゆる  
性行為のための  
アーツ学だね

ま、答えを言っちゃおうと

これに書いてあったのは  
精神に作用して性的興奮の助長、  
性感帯の開発、感度の増幅…

な！？

あっ



なな…っ  
何でそんなものが…っ

何でロドスにこんなものがあるかは知らないけど

存在意義に関して十分あると思うよ



え…

例えば主目的は家畜に繁殖とかかな

風俗嬢の精神負担の軽減、

子作りの補助だったりとかね

もー



わざわざアーツまで使用しているんだ

それなりの理由はあるんじゃないかな？

そ、そうか…

確かに…  
モステイマの言うとおりで

すぐ偏見を持つものじゃないな…

よし、じゃあドクター







君が私から  
逃げられると思った？

あと

逃げようとしたバツとして  
君にもうひとつ  
アーツをかけさせてもらったよ

も、もうひとつ…？

…  
モ、ス…っ

ゾク…

それは…

ア

□□□□



ひっ!!

!!  
な、なんだ...!!  
今の...っ

ふふっ  
いい声だね、ドクター

これは全身の感度を上げる  
アーツらしいよ

触れた時の感度が  
何十倍も跳ね上がるらしいけど

H  
Practical Arts



まさか肌に触れただけで  
こうなっちゃうなんて...ね?

...じゃあ、ドクター

楽しもっか?





さつき君に  
アーツをかけたとき



私にも  
同じものをかけたのさ



え！



んっ♡

ひくくんっ♡

あはっ



だから…んっ♡

私も…♡

身体が…♡  
敏感に…♡



あは…  
バレちゃった？



直接…  
触って…っ♡

私も…っ  
限界だから…っ♡

…だから、ドクター…

はっ♡  
すっ♡

ぐっ♡

ふっ♡



体温…  
熱い…っ

モステイマ…っ  
ぶん♡

…っ…!

はっ♡  
ふっ♡

ふっ♡









...ドクター、  
いいよね？

はぁ♡

はぁ♡

モス、ティマ...っ

もう私のここは...  
君が欲しくてたまらないって  
いってるよ

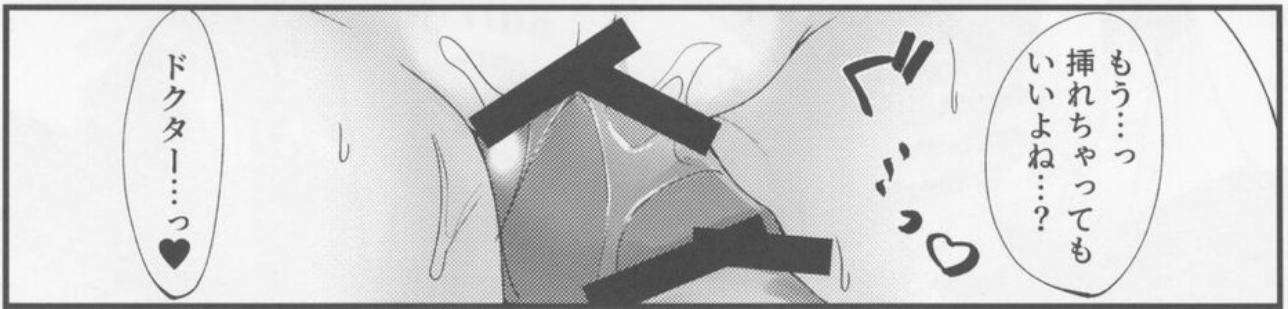
きゃん♡

ふちゅ...♡

はぁ♡

す

ふいっ



ドクター...っ♡

もう...っ  
挿れちゃっても  
いいよね...?



ちゅっ♡

ちゅっ♡ちゅっ♡ちゅっ♡

っ♡

→

っ



っ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

っ♡

っ♡



っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡

っ♡





こんなに...  
乱れて...

...あのモステイマが...



ごめんっ  
モステイマ...っ!!



あっ♡

でそ...

びりりちゅっ

まやん

びりりちゅっ

ごめん...っ  
我慢できない...っ

んあ♡

まっ  
ドクター...っ!!♡

わく

はっ

あっ♡

ほちゅっ

ほんっ

ほんっ



びく

イ...っ

ふん...



はっはっはっ  
はっはっはっ



おく……っ ♡  
ドクターの精液に  
叩かれて……っ ♡



はっはっはっ  
はっはっはっ

はっはっはっ ♡



モステイマ……っ



はっはっはっ  
はっはっはっ



はっはっはっ  
はっはっはっ



舐めて

グンッ

ぬッ

...



...はあッ  
モステイマッ...

はあッ

はっ

ちゅっ♡

すか

んッ

んッ

ちゅっ♡

はっ

んッ♡

はっ

まだ...こんなに...♡♡



ごめんッ  
モステイマッ...!!

ぐんッ

んッ

ちゅっ♡





もう…  
君は余裕がなくなると  
すぐ無茶させるんだから…

…そんなふう  
にされちゃうとき

ぽんっ♡

私も  
最後まで付き合ってもらわないと  
満足できないよ

ほっ♡

ハキ♡

ニギタ♡

はっ♡

ほっ♡

ハキ♡

はっ♡

とろ♡

はっ♡

ドクター

…きて



わんわん

うん

わん

うん

わん...

...わんわん...

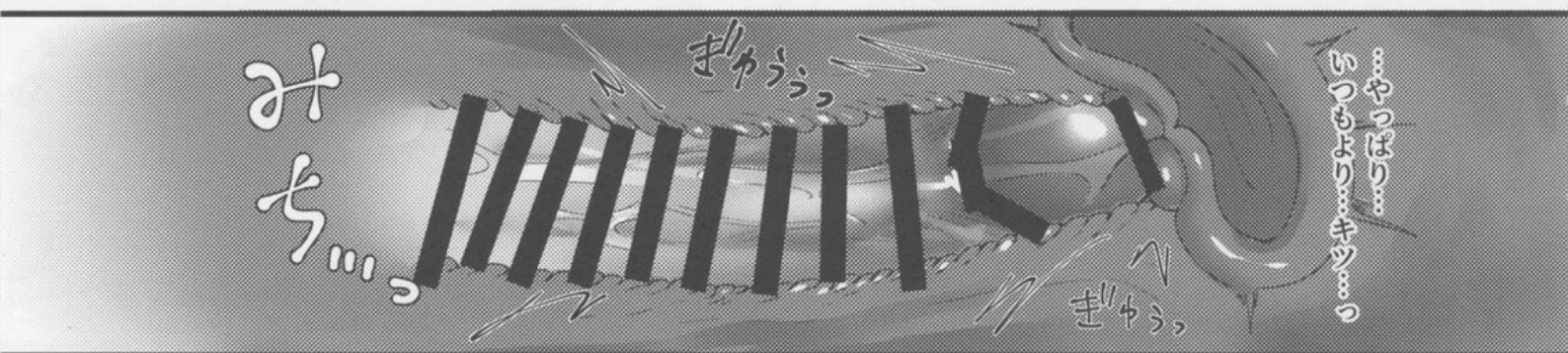
お

わん

うん

わん

わんわん



お

わんわん

わんわん

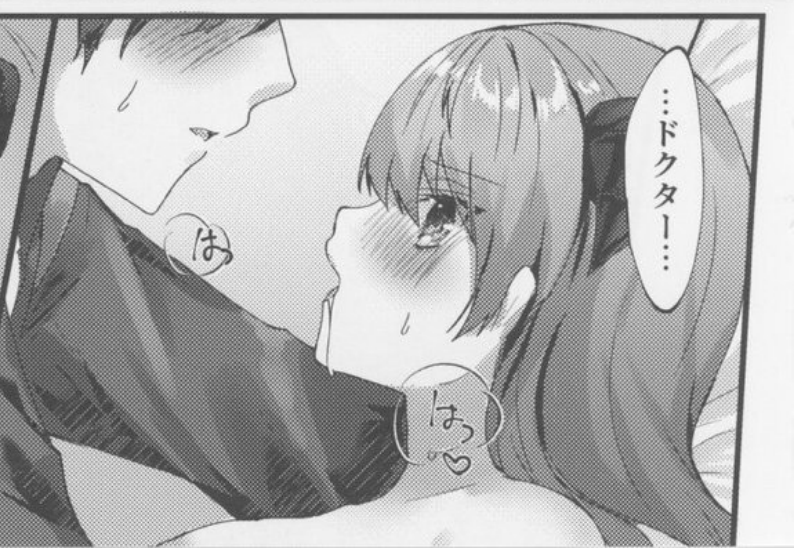
...わんわん...



わん...

わん

わん



わん

わん

...ドクター...





…ドクター…

スリッ



ぬっ

はっ

こっん

アーツのせいだけじゃないかもしれないな

こんな気持ちいいのは



きゃうっ

きゃん♡

こんなに…  
温もりを感じるのさ

…ドクターだから

ぬっ♡

はっ











稲沢 みんと

「ねえ、ドクター」

ドクターのいる執務室でくつろぐモステイマは、唐突に声をかけてきた。

「どうした？」

「海水浴に行きたいなって思ったんだけど、どうかな？」

「ふむ……」

今の時期は夏、一週間の天気予報もしばらくは晴れマークのみで、海水浴をするには絶好のチャンスと言える。

しかも幸いな事に今の基地からシエスタが近い(シエスタにあるのが海なのかどうかはさておき)。今すぐにでも支度をして行きたいところではあるが、問題が山積していた。

(困ったな……)

そう思いながらドクターは現状の問題を二つ思い浮かべる。

一つ、目を通していない資料の整理及び仕分け。

もう一つ、自身の財政面。

とはいえ、一つはほぼ日常茶飯事とでも言うべき問題なので、案外大したことではない。まあ、時々アーミヤが来ては天使のような笑顔のまま「まだ休んじやダメですよ」と悪魔のような言葉を言い放つのは未だ慣れていない訳のであるが……

それ以上にドクターが焦っていたのは、財政面の問題。

ここに、二ヶ月の間でモステイマとは何度もデートをしていた。

勿論、恋人である彼女と過ごす時は格別である。だが、それを何度までできる程ドクターの財布に余裕は無かったのだ。

「……あまりデートらしい事はできないが、それでもいいか？モステ

イマ」

「オッケー、私は平気だよ

私は大好きなドクターと一緒にいる事ができたら、それだけで充分幸せだからね」

「ぶふうっ！？！？」

あまりにも直球すぎる言葉のせいで、飲んでいたアイスコーヒーを吹き出すドクター。

「あらら、布巾持ってくるね」

「……すまない」

吹き出したコーヒーを拭き取ってもらい、そのまま業務に戻るのであった。

二日後の朝、シエスタにあるプライベートビーチに来た二人。

「うわあ、いい景色だねえドクター」

「ああ、そうだな」

カンカン照りの太陽と、美しく輝く白い砂浜。最高の海水浴日和だ。

「ところで日焼け対策はしたのか？」

「まだなんだよね、塗ってくれるかい？」

ビキニ姿のモステイマは、そのままパラソルの下にある大きめのビーチ用のマットにうつ伏せになった。

「……わかった」

「頼んだよ、ドクター」

日焼け止め液を手に出し、ゆっくりと彼女の身体に塗っていく。首筋、腕、背中、腰……満遍なく馴染ませていく。

「んう……んっ……」

時折、彼女の妙に艶のある声に理性が揺さぶられる。

駄目だ、いくら人目のないプライベートビーチとはいえ……そんな思考を溶かすように、彼女は身体を仰向けにする。

「こっちもだよ、ドクター」

「わかってるさ」

堪えろ……そう自分自身に言い聞かせながら、もう一度日焼け止め液を彼女の身体に塗っていく。

「こっちが塗れてないよ？」

「わあっ!?!」

手を掴まれ触られたのは、ビキニで覆われた胸の部分。

「……びっくりするからやめてくれ、モステイマ」

「その割には満更でも無さそうな顔だったけどね」

「違っ……そんなことは!」

「ドクターってば、素直じゃないんだから」

最後に胸を塗り終えた所で、彼女はドクターの耳元で囁いた。

「後で……しよっか」

「……」

空いた手で優しく股間を撫でられれば、むくむくと自身の欲望が膨らんで。

(ああ、また私は……彼女の誘惑に負けているのだな……)

そう思いながら、波打ち際に向かうのであった。

「ドクター、入らないのかい？」

「私はこれぐらいで充分だ、モステイマの楽しそうな姿を見るだけで幸せだからな」

「ふうん……？」

溶けるような暑さとはいえ、海水はやはり冷たい。

「……足だけ軽めに入る程度でいいか」

なんて一人で呟いていると、彼女が近づいてきて、自分の腕を強く引く張った。

「ぐおっ!?! わわわっ……うわあっ!」

バツシャアアアン……!と豪快に全身に海水を被る。

「せっかくならめいっぱい楽しまないとね? ドクター」

「ゲホッゲホッ! やったなあ……モステイマ!」

「きゃっ!」

全身が濡れて吹っ切れてしまったのか、先程と打って変わってはしゃぎ始めるドクター。

「そうこなくっちゃね、ドクター?」

「はは……そうだな」

その後も彼女と一緒に、最高の時間を過ごした気がする。

「ドクター、いくよ?」

「おっとおっ……それっ!」

「わっ……トスが上手いねえ」

「それなりにな」

めいっばいに海水浴を楽しみ、ビーチバレーを軽くやって。

「モステイマ、肉が焼けたぞ」

「ありがとうドクター、いただきます」

「いただきます」

海辺でやるパーベキューは、なんだか特別な気がして。

ドクターの目線の先では、モステイマが楽しそうに海水浴をしている。

「美味しいよ、ドクター。」

「お金が足りないと言った割には、随分奮発したね？」

「……まあ、な」

しばらくは節制を強いられるだろう。

だが、こうして楽しんで二人の大切な思い出になるならそれで良い。

何より、彼女が幸せそうにしているのが自分にとって嬉しいことこの上ないのだから……

「ふう……美味しかった」

「ああ、私も美味しかったよ」

「食後の運動しないとね……ドクター」

「……わかった」

後で、しよ……？——後……という時間は、今この時間で。

そのまま、ドクターはモステイマにゆっくりと押し倒される。

「んっ……」

彼女からのキス。

「んむ、んっ……」

キスだけでむくむくと膨らむ自分の欲望に恥ずかしさを覚えつつ

も、彼女の誘惑に溺れていく事を望む。

「私も我慢できない……いい？」

「……」

無言のまま頷き、許可を与える。

水着を脱がされ、欲望が丸出しになる。

「ん、ちゅ……んふう……」

「う、あっ……」

暖かい口内の感触に思わず声が漏れてしまうドクター。

「んふ、ん……れろれろ……んっ……」

「モス……ティマっ……」

彼女の名前を呼ぶ。

「ん……？ん、ちゅ……」

「……っ……」

目の前で愛おしそうに自分の欲望を啜るモステイマ。

初めて彼女と愛を確かめあった時から、この姿は変わらない。

もつと……もつと……彼女を愛したい。

彼女の誘惑に溺れる程、愛情は天井を知らぬままに増していく。

「んふう……れろれろお……んっんっ」

「ぐっ……それはヤバいっ……」

舌先でカリをなぞられ、白い欲望を欲しがるように吸いつく……

墮天使の誘惑の口淫。

「うあっ……出るっ……！」

びゅるるっ……びゅっ……！！限界を超え、白い欲望が吐き出

される。

「んう……んっ、んふう……」

その全てを飲み、愛情として受け止めるモステイマ。

彼女の身体もまた、ドクターの誘惑に溺れていた。

「ドクター……もう我慢できないや」

「……私もだ」

未だそそり立つ欲望の上に跨り、水着を少しずらす。

海水では無い、とろとろの彼女の愛液が零れ落ちる。

「んっ、んんっ……んっ……！」

「うっ……あ……締めつけがっ……」

パラソルの下で、二人は一つになる。

「はあ……はあ……」

「はあ……ん、モステイマ……」

「ドクター……」

騎乗位の体勢で、お互いに名前を呼び合う。

「……んっ、あっ……あっあっ」

動くよ、なんていう確認はもう要らない。

指を絡め合うように両手を繋ぎ、腰を振り始める。

「モステイマっ……好きだっ……」

「私も……好きっ……ああんっ……!」

ぱちゅん……ぱちゅん……ずっちゅずっちゅ……

「あっあっ、この体勢っ……好きなどころがいつぱい擦れるっ……気持ちいいっ……」

「そうかっ……私も……気持ちいいよっ……」

「ドクターっ、ドクターっ……」

「モステイマっ……」

こっん……と、子宮口と亀頭が触れ合う。

「くっ……!……!……!」

身体中に甘ったるいスパークが駆け巡り、頭がぼんやりしてしま  
う。

「……大丈夫か?」

「うん、大丈夫……」

そんな事、聞かなくてもいいのに。

ドクターの誘惑に、また溺れてしまうから……

ずちゅっずちゅっずちゅっ……再び腰を振る。

「んんんっ……!気持ちいいっ……!」

「モステイマっ……私もっ……うあっ……!」

「ドクターっ……好きっ……大好きっ……!」

「私も、好きだっ……モステイマ……!」

びゅっ……びゅるるっ……

子宮の中に流れ始める、純白の愛情。

びゅるるっ……びゅっびゅっ……!……!……!どびゅどびゅっ……!……!……!

「くっ……!……!」

「……っ……!……!」

波の音に、二人の声はかき消された。

「ドクターっ……」

「モステイマっ……」

対面座位になり、お互いに抱きしめあう。

「……すまない、モステイマ……まだ足りないみたいだ……」

「ふふ、仕方ないなあ」

「尻尾は正直みたいだぞ」

再び落ち着いた波打ち際をよそに、愛を確かめあう。

「んっ、ん……ちゅ……」

「んむ……ん、んっ……」

ずちゅ……ずちゅ……さざ波のような優しいストローク。

「んふっ、んっ……!れろっ……」

「れろれろっ……んっ……」

ぱんっぱんっぱんっ……

時折激しい波を起こしては、さざ波に戻り……

「んっ……ぷあ……ドクターっ……」

「ぷあ……モステイマ……」

波に攫われた私達は、誘惑の海へと溺れていく……

愛してる……愛してる……どこまでも、深く、深く。

「大好きっ……」

「大好きだ……」

ドクター…… モステイマ……

「んんんっ……………!!」

「うあっ……………っ……………!!」

絡みつく愛液は、ドクターを。

中に溢れる愛情は、モステイマを。

何処までも、二人は溺れていくのだった。

---

数日後。

「おはよう、ドクター」

「おはよう、モステイマ」

いつもの執務室、いつもの挨拶。

彼女がいる事で、今日もドクターは元気十分だ。

……………だが、前と変わった事が一つ。

「気をつけて行ってくるね、ドクター」

「ああ、行ってらっしゃい」

「……………んんんっ」

「んんん……………」

ドクターとモステイマしか知らない、秘密の任務が増えたのであった。



## あとがき




こんにちは、飴崎ばにらです。夏コミです。  
本をお手に取って頂きありがとうございます。  
3冊目の博莫本です。  
稲沢は夏らしいの書いてたのに  
めっちゃ夏に関係ないのを描いちゃいました。  
水着コーデとかくれば描きたいんですけどねえ～


今回は前回よりエッチ度増し増しで描くよう  
意識しました。  
じぶんでいうのもなんですが、以前より  
色々パワーアップしてると思います。  
楽しんでいただけたら幸いです。

それではまた会う日まで。

レミアンの実装まだ?

漫画担当 飴崎ばにら

 @789uz

 ID=737847


おはようございます、こんにちは、  
こんばんは、はじめまして、  
稲沢みんとです。(クソ長あいさつ)  
まずはこの同人誌を手にとってくれた方へ、  
ありがとうございます！


テーマ「海」

……物凄く単純明快！  
というか、こういう時だけしか  
小説書けてないのは良くないよ。  
稲沢みんとさん、もっと頑張ろうか……

という事で、pixivであくないつのSSを  
なんか書きます。  
今年中に出来てなかったら土の中に埋まりますので、  
何卒よろしくお願ひします。  
それではまた。

小説担当 稲沢みんと

 @lnzwmnt

 ID=95685533



あつみ



# Angel Temptation

発行日：2023年8月12日(C102)

発行元：はいびすかす(飴崎ばにら・稲沢みんと)

[hbc.bowl22@gmail.com](mailto:hbc.bowl22@gmail.com)

印刷：あかつき印刷さま

※本の無断転載・複製・アップロードを固く禁じます。



ARKNIGHTS  
3RD UNOFFICIAL FANBOOK  
DOCTOR X MOSTIMA  
PRESENTS BY HIBISCUS

